

2026年3月23日 みね健幸百寿プロジェクト事業報告会

プロジェクトA Part2

美祢市内の小中学校におけるがん教育

実施報告



美祢市
MINE CITY

美祢市市民福祉部健康増進課

末永直美、藤井菜都峰、近藤はるか、
穂山敦美、草場真梨

山口県立大学 吉村耕一

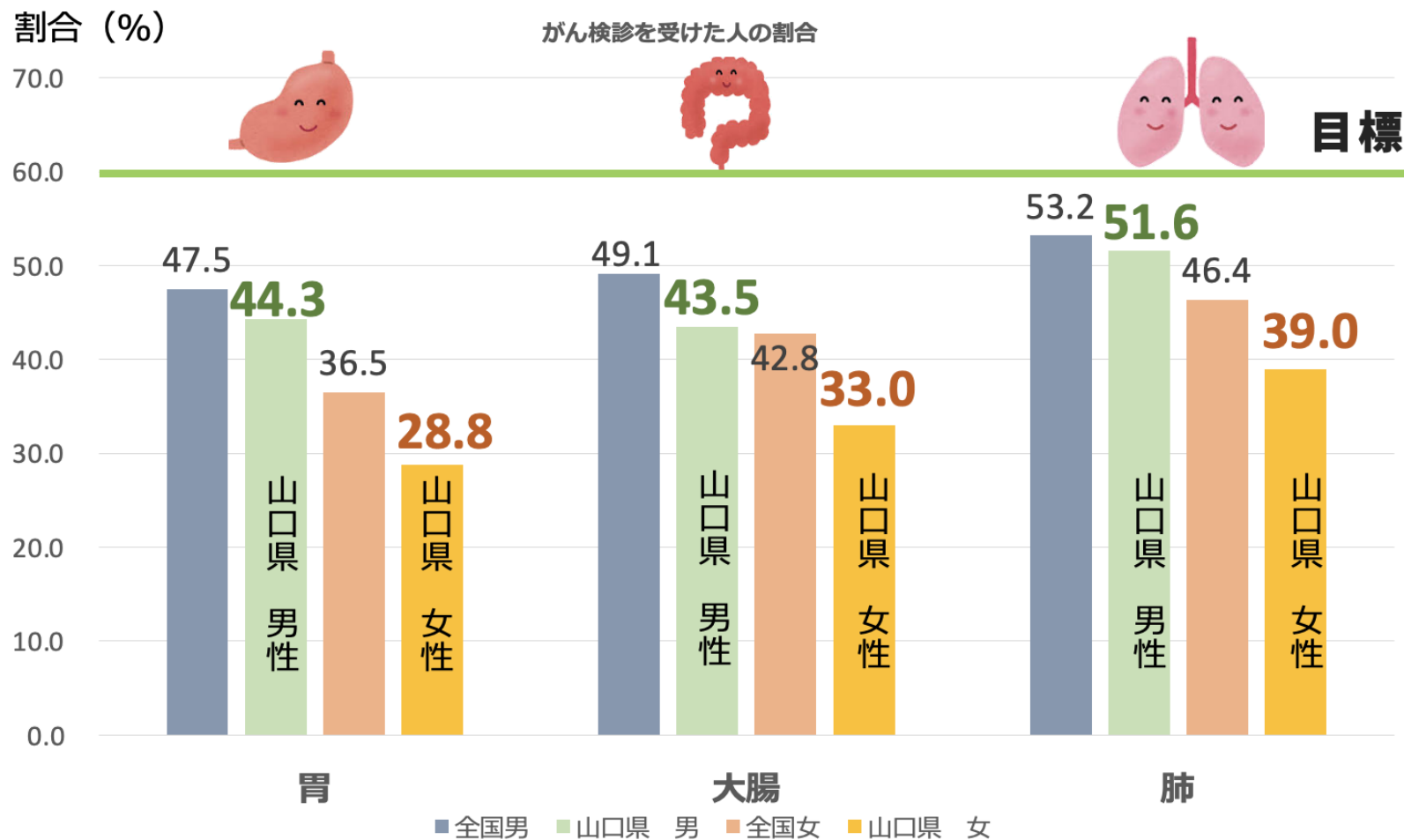


公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

プロジェクトの背景

① 小中学校におけるがん教育の推進（文部科学省）

② がん検診の受診率の低さ



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」男女別がん検診受診率：40～69歳/過去1年間（2022）より高田作図

プロジェクトの目的

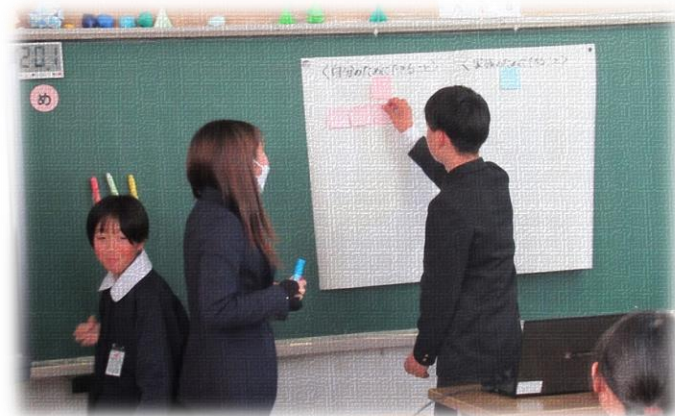
① 小中学校におけるがん教育の普及

② 児童生徒への教育効果

→がんについて正しく理解することができる
→健康と命の大切さについて主体的に考える

③ 家庭への教育効果の波及

→ がん検診受診行動の促進
→ →がん検診の受診率の向上



これまでの経過

令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度
大学による 出前講義	大学による 出前講義	大学による 出前講義 市保健師 による授業	市保健師+学校 教諭による授業
美祢市版の指導 教材の作成 住みます芸人さん とのコラボレー ション授業	美祢市版の指導 教材の作成 住みます芸人さん とのコラボレー ション授業	市と学校教諭との チームティーチン グ案の作成 指導教材の配布 住みます芸人さん との授業	市保健師全員体制 による授業実施 選べる授業形式 住みます芸人さん とのコラボレー ション授業

美祢市&山口県立大学
みね健幸百寿プロジェクト

がん教育プログラム

がんを学ぼう!
あなたと大切な人のいのちのために

山口県立大学
美祢市市民福祉部 健康増進課

1
がんは怖くありません



がんを知り家族の健康考える
美祢市の伊佐小6年生

2025/01/24 06:00 🔒

美祢市

山口新聞に掲載

これまでの経過 + 令和7年度の実施

令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度	令和7 (2025) 年度
大学による 出前講義	大学による 出前講義	大学による 出前講義 市保健師 による授業	市保健師+学校 教諭による授業	市保健師+学校 教諭による授業
美祢市版の指導 教材の作成 住みます芸人さん とのコラボレー ション授業	美祢市版の指導 教材の作成 住みます芸人さん とのコラボレー ション授業	市と学校教諭との チームティーチ ング案の作成 指導教材の配布 住みます芸人さん との授業	市保健師全員体制 による授業実施 選べる授業形式 住みます芸人さん とのコラボレー ション授業	市保健師全員体制 による授業実施 選べる授業形式 出前授業 チームティーチング 保護者の参加

美祢市 & 山口県立大学
みね健幸百寿プロジェクト

がん教育プログラム

がんを学ぼう!
あなたと大切な人のいのちのために

山口県立大学
美祢市市民福祉部 健康増進課

1
かたははるこがはるこに入っています



がんを知り家族の健康考える
美祢市の伊佐小6年生

2025/01/24 06:00 🔒

美祢市

山口新聞に掲載

令和7年度の実施

学校	日時	対象学年	人数	教科	授業形式
厚保小学校	9月22日	3～6年	20人	学活	出前授業 保護者参加 (学校安全保健委員会)
秋芳桂花小学校	9月24日	5・6年	21人	保健	チームティーチング
秋吉小学校	11月18日	6年	11人	保健	出前授業
伊佐小学校	1月20日	6年	12人	保健	チームティーチング 保護者参加 (学校安全保健委員会)
大嶺小学校	1月20日	6年	48人	保健	チームティーチング 保護者参加 (学校安全保健委員会)
厚保中学校	10月14日	2年	11人	学活	チームティーチング
大嶺中学校	11月7日	2年	84人	保健体育	チームティーチング

がん教育実施後アンケート結果 ①

- ① がんを早く見つけてなおすためには、
がん検診を受けることが必要だとわかりましたか？

→ほとんどが検診の重要性を理解することができた。

がん教育実施後アンケート結果 ②

- ② 大人になったら、
がん検診を受けようと思いますか？



→7-8割が将来の検診受診について考えるようになった

がん教育実施後アンケート結果 ③

- ③ がん教育で学んだことや感じたことを
家の人に話しましたか？



→約6割が家族と話して伝えることができた

まとめ

- 概ね全ての小中学校で美祢市版がん教育を実施でき、カリキュラムのひとつとして定着してきた。
- 市保健師と小中学校の教諭・養護教諭とのチームティーチングの実施ができた。
- 市保健師全員が、がん教育を実施できた。



- ほぼ全ての児童・生徒が、早期発見のためのがん検診の重要性を理解することができた。
- 7-8割の児童・生徒が、将来の検診受診行動を言葉にすることができた。
- 約6割の児童・生徒が、授業終了後に家族と話すことができていた。